

文芸少年のつばき

短歌

【右瀬短歌会】

この猛暑昼に戻りし夫のため一杯のかき
氷まらずは差し出す 渡辺しな子

いくつかのキャラが飛び出すカラオケ会
歌謡芝居のカツラが揺れる 小林美瑛子

オミナエシ早や満開に咲き急ぐ異常気象
の梅雨明け宣言 兒玉廣子

悪霊も感染症も持ち込まぬとつがひの蝶
さえ掃除機に吸ふ 鈴木英雄

吾が庭は鶴一家の縄張か目白すずめも姿
を見せず 広澤日出子

みどり児を胸に抱きよせ末の娘も母とな
りたる涙流せり 仁平千代

あとつぎのをらぬ石屋を閉つと決め空に
向かひてため息ひとつ 瀧井幸子

肌掛けも掛けたくなくて熱帯夜はいつの
間にやらエアコン頼り 泉三郎

葉タバコの栽培消えしふるさとよ夏の畑
に活気見られぬ 大久保富美江

午後五時の「夕焼け小焼け」が聞こえた
らさてどっこいしょと夕餉の支度 浜野和操

花柄のレインシューズに赤い傘八十路の
友が颯爽と行く 川崎邦子

遠くまで広がる植田は濃淡のモザイク模
様風にそよぎて 雨谷友子

ゆるやかな坂道ゆくにゆるやかな坂道を
来るあなたに出会う 瀧田勇

誠実なコンビニのレジの対応にこころ嬉
しく弁当を買う 久保悦子

七夕の短冊はじめて書く孫の反転してい
る文字も愉しき 大関登志子

【一般投稿】
炎天か心無にして先ゆけば路傍の花は我
が菩提なり 鈴木省一

俳句

【茂山俳句会】※兼題「鶏頭」「残暑」テ
マ句「寄」ほか雑詠

八十路なる知足の余生残暑かな
金子弘毅

極暑かな寄木造の仁王像 渡部千恵子

退院後こころの癒えず残暑かな 酒寄誠

寄り道もせず歩みて米寿の秋 植竹ふみ

鶏頭の久の雨中に朱を極む 宮本立夫

戦争を知らない子等の終戦日 相田ひろし

陽をためてためて鶏頭いよよ燃ゆ 君島真理子

【一般投稿】
伝承館歴史とゆめが詰まってる 青木勲

子を待ち出番待ってるタル御神輿 入山比呂子

夏化粧「さよなら」言うねレモン味 小林衛子

水蓮の花のもとには鯉世界 長堀芳江

夏空や燕と飛行機すれ違ふ 友常小蝶

古墳より加波山仰ぐ青田風 浅賀順子

【さくら俚謡会】
乳茸松茸千本シメジ採れた裏山今は夢 山もみじ

一家団欒湯トーフ鍋の湯気の向うに冬が
居る 花野しぐれ

老いの仕事は一日ひとつ草取りできたら
ご満悦 みーちゃん

匂う木犀仄かな香り心やさしく告げる秋 田哲人

【お詫びと訂正】

本紙2025年8月1日号（No. 477）に誤りがありました。お詫びして訂正します。

（誤）

蝶になり青田の海を渡りたいダイヤモ
ンドのごとし道辺の葵

（正）

・蝶になり青田の海を渡りたい
・ダイヤモンドのごとし道辺の葵

スミハツ SUMIHATSU

スミハツの技術が
未来の交通インフラと
産業機械を支えています

2027卒の方は、
マイナビ2027から▼

中途採用ご希望の方は、お電話
またはホームページより▼

NHK ニッパツグループ

未来に誇れる仕事を
一緒にしませんか？